

二〇二三年度

# 適性検査Ⅰ

## 注 意

- 1 問題は **1** のみで、5ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は**四十五分間**です。
- 3 声を出して読むではいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、**解答用紙だけを提出しなさい**。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 **受験番号・氏名**を問題用紙と解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

聖徳学園中学校

受 験 番 号				

氏 名

① 次の **文章1** と **文章2** とを読み、あとの問いに答えなさい。  
( \*印のついている言葉には本文のあとに「注」があります。 )

### 文章1

国内の森林資源は、二一世紀初頭には本格的に収穫ができる時期を迎えます。

一方、熱帯林の減少や国際的な木材貿易の拡大を背景に、持続可能な森林経営の達成に向けた国際間の取り決めづくりの作業や、二酸化炭素の吸収源としての森林の評価作業が進められていきます。このような国際的な動きは、単なる自由貿易の原則によって木材が取り引きされることに対し、大きく制限が加わる可能性を示唆しているのではないかと考えています。

このような国際的な動きを踏まえて、二一世紀中葉の森林、林業、木材産業を展望してみましよう。

自国の森林を温存して外材を大量に輸入する日本に対する国際的な批判が高まり、木材貿易に対する国際的高率関税が課されるなど、輸入木材の価格が高騰し、輸入量も減少するようになることが予想されます。

このような中で、木材需要を見ると、木材加工技術の向上により、国産材も鉄、コンクリート並の性能の安定性を確保することができるようになっており、居住性が高く、風土に合った国産材

を使った木造住宅や学校等の公共建築物が見直され、国産材の需要が確実に増加していることでしょう。特に消費者の意識は、デザイン性や設備を主体に住宅を判断していた時代が過ぎ、構造材の選択に当たっても、柱は〇〇地域産のヒノキ、桁は△△地域産のスギというように、カタログを見ながら注文する「こだわり」が強くなっていることでしょう。これは、これまでの住宅選定の反省に立ったものであり、同時に木材供給側がきめ細やかな情報を消費者に提供するようになったからです。

このような木材需給構造の変化に伴い、木材価格は上昇傾向を示しましたが、木質資源のリサイクル技術の向上もあって、木材需要の多くを国産材で賄える状況が到来するようになります。この結果、日本の林業、木材産業の採算性は好転し、林業生産活動も活発化しているでしょう。これは、二酸化炭素の放出量削減目標を達成できなかった日本が、国際的批判を浴び、化石エネルギー多用型の資材である鉄、アルミニウム、プラスチックといった素材に対し高率の炭素税がかけられ、木材価格も相対的には他資材に比べ価格競争力をもつようになったことも大きく影響しています。

産業としての林業は、無機的な環境での都市型の事務職における心身症の多発傾向を背景に、次第に環境保全型職業としての社会的ステータスが向上し、高性能林業機械の定着により就労

条件が飛躍的に向上することもあって、森林マネジメンターというような地位を確保しています。また、直接労力に依存しなければならぬ分野も林業用ロボットの開発により、人間が直接手を下す必要がなくなることから、男女を問わず完全に新規就労者の人気産業として定着しています。

人々の生活においても、ごく普通に森林と触れあうことのできる時間が増加し、家族のきずな、地域のコミュニティを形成する上においても、森林空間の活用が大きな役割をもつようになっていきます。また、森林をフィールドとした学校教育科目が定着し、情操教育の中心的存在となるでしょう。

このように、二一世紀の社会においては、国内の森林や木材に対する評価が高まり、地球環境と共存し得る循環型社会の確立が進んでいるに違いありません。

子どものころ、二一世紀は夢の時代として遠い存在でした。しかし、今、現実となり、私たちの子どもたちがこの世紀を支えていくこととなります。

人間、ホモサピエンスは地球上の他の動物と違って、脳を極端に発達させてきました。その結果、知能が発達し、道具を使い、火を利用し、機械をつくり豊かで便利な社会を築いてきました。その反面、私たちの生存の基盤である地球を流れる時間の追従を許さない遥かに速いスピードで私たちは地球に負荷を与えるよう

になってしまいました。より便利な方向、より豊かな方向へと私たちの欲望がそうさせたのです。

この結果、二〇世紀は、産業が飛躍的に発展し、大量生産、大量消費、大量廃棄の時代となりました。

今や、地球にとって、他の生物とは異なり、私たち人間の存在そのものが負担となっていての間違いありません。私たち一人一人が謙虚にこのことを受け止めていかなければならないでしょう。

よく、都市と地方の対立の構図を見ることがあります。

都会の人が、田舎の人に対し、環境が壊れるから、道をつくるなどといってみたり、舗装道路は必要ないなどといってみたり。しかし、こういう意識は、正しいのでしょうか。このような環境問題について声を大にする人々も、普段、自動車や鉄道を利用し、電気を使い、紙を消費しています。日常、森林の手入れに汗することもあります。きっと地方の人々に比べ、一人当たりの地球への負荷量は遥かに大きいはずです。

二一世紀を生き抜くためには、このような現実をしっかりと理解し、謙虚さを失わないことが大切です。また、お互いに、それが他人であったり、動物であったり、地球であったりもしますが、思いやりを持つことが基本となるでしょう。

日本では、公徳心に欠ける光景を目にすることがよくあります。

自然公園の中で平気でゴミを捨てる人、木の幹に名前を彫る人など枚挙にいとまがありません。このようなことをするのは日常生活でも、吸い殻を捨てたり、車から空き缶を投げ捨てたりしているからでしょう。これは、自分さえよければ構わないという発想に根ざした行為です。誰でも多かれ少なかれ経験しているのではないでしょう。この公德心も結局、思いやりの心をもつことで生まれてくると思います。

このような意識を持つことによって、初めて森林に根ざした文化がもっていた循環思想を基本とした循環型社会の構築が可能となると考えています。こういう意味で、二一世紀を「森林の世紀」にすることができかねるかが人類生存の鍵となるに違いありません。

(矢部 三雄「森の力 日本列島は森林博物館だ！」  
講談社＋α新書)

〔注〕 中葉——ある時代のなかごろ。中期。

桁——家などで、柱の上に横に渡して上に乗る物を支える木材。

相対的——他との関係、比かくの上に成り立つさま。

情操教育——感情や情ちよを育み、心の働きを豊かにするための教育。

## 文章2

喜樹の家は、祖父の庄蔵の代まで代々林業を営んできた。しかし、喜樹は林業についてよくわかっていない。そんな彼に庄蔵や仕事仲間のせいやんが森について教える場面である。

「ほれ、あつちにある、ちよつと灰色っぽい幹の木は檜だ。良い香りがして、これも腐りにくいから、風呂場に使うのもいいな。材としては最高だ。総檜の家なんぞ、そりや贅のきわみだ」

せいやんは、また別な木を順々に指差して言った。

「こつちは杉だ。柱でも天井板でも、何にでも使えるし値段も手ごろだ。だから、この裏山ひとつで、立派な家が軒建ちまうのよ」

せいやんは、目を見張る喜樹を見て楽しそうに笑った。

が、すぐに眉根をよせた。

「ただな……。ここの山では、松くい虫で、松がみんなやられちまった。松は曲がり強いから、そこから柵目板をとるとなると、何百年もの大木じゃないと無理なんだ。だから、喜樹ちゃんの家は柵目床は、お宝もんだ。ずっと大事にしてけるや」

喜樹は、川田さんの「二度とこんな家は作れない」と言っていたわけが、せいやんの言葉につながって、すんと頭の中に納まったような気がした。

喜樹は、同じ山の木を見ても、せいやんと自分では、ア見えるものがまるで違っていることにも気がついていた。

(せいやんの頭には、木の性質もその使い方も、ぎっちりつまっているんだな)

「せいやんは、木のこと、どこで勉強したの？」

「勉強する？」

せいやんは、考えてもみなかつたというように、首をかしげた。

「木こりの仕事は学校の勉強ではできねえよ。木を伐りながら、体で覚えていくんだ。上の代に仕込まれながらな」

せいやんは、そういつて、喜樹の肩を両手でぼんぼんと叩いた。

喜樹は、なんだかくりかえされた「仕込む」という言葉に、自分の肩におかれたせいやんの分厚い手の平と同じような温かさを感じていた。

せいやんは、口元に満足そうな笑みを浮かべた。

「喜樹ちゃんにも、いつかこだな話してえなと思つた。あと何十年後に、この山を見てるのは、喜樹ちゃんだものな」

「せいやんは？」

「ははは、もちろんあの世だべ。だけんど、その頃の山がどだな姿になっているかは、ちゃんとここさはいってんだぞ」

せいやんは笑いながら、手ぬぐいを巻いた自分の頭を人差し指で突いた。

「おう、何しとつた」

そこへ庄蔵がやって来た。

「せいやんから木の話、聞いてた」

そういうと、庄蔵は「そうか、そうか」とうなずいた。

庄蔵の真っ白い頭を見ていたら、喜樹はふと聞いてみたくなつた。

「じいちゃんも、あとイ何十年後の山の姿って、見えてるの？」

「へえ？」

庄蔵は、なんとも不思議なことを聞くもんだと言うように、目を大きくして喜樹の顔をのぞき込んだ。

(堀米 薫 「林業少年」新日本出版社)

〔注〕贅のきわみ——このうえなく、ぜいたくであること。

〔問題 1〕

ア見えるものがまるで違っているとありますが、喜樹とせいやんの見方の違いを次のように説明しました。空らんにあてはまる言葉を **文章 1** から八字で書きぬきなさい。

木に関する

を知っているかどうか。

〔問題 2〕

イ何十年後の山の姿とありますが、子どもたちが生きた「何十年後」において、地球環境と共存する社会の実現のためには、何が必要ですか。 **文章 1** の言葉を用いてまとめなさい。

〔問題 3〕

**文章 1** と **文章 2** はどちらも「森林環境」についてまとめた文章ですが、この他にも世界中では数多くの問題が起こっています。そこで、私たちみんなが安定した暮らしができるように、世界中の様々な立場の人々が話し合い、十七の目標を立てました。それが「SDGs（持続可能な開発目標）」です。下記の「十七の目標の抜粋」のうち、私たちみんなが安定した暮らしをするために、あなたが特に注目したい目標を一つ選びなさい。選んだ目標について、選んだ理由、目標達成のための具体的な行動をまと

めつつ、自分の考えを書きなさい。なお、内容のまとまりやつながりを考えて段落を分け、四百字以上四百四十文字以内で述べなさい。ただし、次の「きまり」にしたがうこと。

〔SDGs 十七の目標の抜粋〕



〔きまり〕

- 題名は書かず、最初の行から書き始めます。
- 各段落の最初は一字下げで書きます。
- 行をかえるのは、段落をかえるときだけです。会話を  
入れる場合は行をかえてはいけません。
- 、や。や」などもそれぞれ字数に数えます。これらの記号  
が行の先頭に来るときには、前の行の最後の文字と同じま  
目に書きます。（まず目の下に書いてもかまいません。）
- 段落をかえたときの残りのまず目は、字数として数えます。
- 最後の段落の残りのまず目は、字数として数えません。

